

なんでもインフォ 2014. 2



発 行　株式会社 昭和土木設計
岩手県矢巾町流通センター南４丁目１−23　Tel 019-638-6834　Fax 019-638-6389

～月について～

はじめに

先月の満月は今年で一番小さく見える満月でしたが、気づいた方はいらしたでしょうか？月は地球にとって唯一の衛星であり、夜空で最も明るく見える天体であります。

今回のなんでもインフォは私たちにとって身近な天体である月について紹介したいと思います。

月の大きさ

月は地球から約 38 万 km 離れた距離にあり、直径は約 3,476ｋｍで地球の 1/4 の大きさをもつ衛星です。太陽系の中では 5 番目に大きい衛星ですが、母惑星との比率でいえば、太陽系で一番大きいガニメデは母惑星である木星の 1/27、次に大きい土星のタイタンは 1/23 であることから衛星としては非常に大きい天体であるといえます。

月の満ち欠け

月は地球の周りを公転しているため、太陽から光を受ける部分が変わり、満ち欠けを繰り返します。この満ち欠けによって見える月には呼び名があります。

月の形	呼び名	備考
	新月	月の裏側が照らされているため地球から見えない。
	三日月	新月から 3 日目の月。
	上弦の月	新月から満月の間の半月。
	満月	太陽と地球と月が一直戦場に並んだときにおこる。
	下弦の月	満月から新月の間の半月。
	二十六夜	新月から 26 日目の月。逆三日月とも呼ばれる。

月の公転

月の公転軌道は楕円形であり地球との距離が変化するため見かけの大きさも変化します。最も近いところで約 36.3 万 km、最も遠いところで約 40.5 万 km になり見かけの大きさは 10%程度変化します。冒頭でも書きましたが、先月が今年で一番小さな満月でした。逆に一番大きな満月は 8 月 11 日に見られます。このときの満月はスーパームーンと呼ばれます。スーパームーンはおおよそ年 1 回見られ、昨年のスーパームーンは通常より 14%大きく見えました。

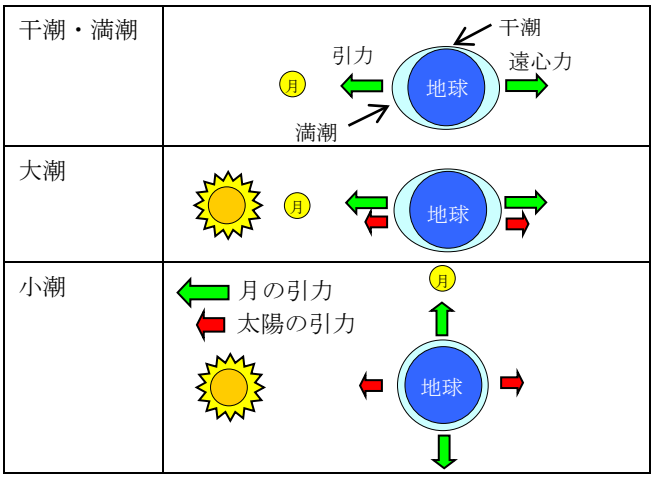


月の自転

月の自転の周期は約 27 日で公転の周期と同期していることから、地球上では常に同じ面を見ていることになります。この現象はそれほど珍しい現象ではなく、木星や土星の衛星など、多くの衛星にも見られます。

潮汐力

干潮や満潮などの潮のみちひきは月の引力によって引き起こされます。この潮の干満を起こす力を潮汐力といいます。この潮汐力は太陽からも受けますが、距離が遠いため月の半分程度しかありません。



月食

地球が太陽と月の間に入り、月が地球の影に入る現象を月食といい、満月のときに起こります。ここで、月の一部が隠れる場合は部分月食、月全体が隠れる場合を皆既月食といいます。今年は 10 月 8 日にほぼ全国で皆既月食を観察することができます。

おわりに

まだまだ寒い日が続きますが、寒い日は空気が澄んでいるため星がきれいに見えます。年度末に向けて忙しい日々だと思いますが、たまには夜空を見上げてみてはいかがでしょうか。

株式会社 昭和土木設計の紹介

弊社は，道路・河川・橋梁等の計画・設計，GIS，IT ソリューション等の業務を行っております．
”なんでもインフォ“のバックナンバーについては http://www.showacd.co.jp をご覧ください．

配布者

作成者：コンサルタント事業部
佐藤　智行